

## 桜宮中文化祭 青春（アオハル）～青春の最高の1ページを～

10月25日（金）、文化祭実行委員長・花野栞さんの開会宣言で令和元年度文化祭が始まりました。今年のテーマ「青春（アオハル）～青春の最高の1ページを～」のもと、どの学年もどの部活動も、準備段階からしっかりと取り組み、団結を高め、それぞれの成長を実感する素晴らしい文化祭を創り上げてくれました。

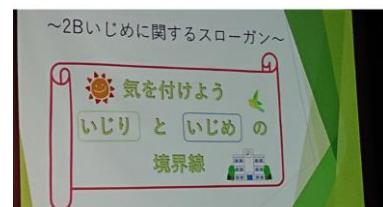
舞台発表のオープニングを飾るのは演劇部の劇「最後のプレゼント」です。交通事故で大切な友人を失った主人公は、「私のせいで」という思いを引きずり学校も行けなくなります。しかし、事故で亡くなった友人の母からプレゼントと「生きる」ことへのメッセージをもらい、前向きに生きていこうと決意します。命の大切さ、苦難を乗り越え前向きに進んでいこうという強いメッセージを感じさせてくれました。

1年生はラインダンス「I wana be～」です。練習の成果を発揮し、息の合ったダンスを披露してくれました。「あきらめないでどんな時も 君なら出来るんだどんな事も…」歌詞のフレーズが強く心に残りました。また、「Friends」をテーマにモザイクアートにチャレンジし、ワンピースの大作をみんなの力で完成させました。

生徒会は、舞台発表「君にできることは？」をテーマに「いじめ」について考え、ショートドラマを作成して「いじめ」の問題点について説明しました。最後に、2ブロック生徒会交流会で決まった「いじめ」に関するスローガン「気を付けよう『いじり』と『いじめ』の境界線」について説明し、「いじめ」のない集団づくり、学校づくりを宣言しました。

2年生の劇は「真夏のアオハル in 京橋」です。74年前の終戦前日、8月14日の大阪大空襲でおこったことをおばあさんは語ります。厳しい戦時中の生活の中にも母と兄・姉・妹の明るい家庭がそこにはありました。米軍の爆撃で京橋駅南側の大阪砲兵工廠で働く兄は帰らぬ人に、京橋駅で働く姉は悲惨な現状を目の当たりにし心に大きな傷を背負います。戦後、生きる気力を失った姉は、母の「生きなあかん」という強い言葉で立ち直り、戦争の悲惨さを後世の人たちに語り継いでいきました。妹であるおばあさんも、戦争を知らない世代の人に、私たちが住む京橋の街で、戦争により尊い命が奪われていった現実があったことを伝えていくと語ります。

JR京橋駅の南口には「大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰靈碑」があります。大阪陸軍造兵廠に落そうとした1トン爆弾が北側に流れ、その一つが京橋駅環状線の高架を突き破り、片町線ホームに避難していた人々の上に炸裂しました。まさに断末魔の叫びが飛び交う生き地獄そのものだったそうです。改めて、今の平和に感謝するとともに、この平和を築いてきた人々への感謝、悲惨な戦争の実態を語り継ぐことの大切さ、そして苦難に負ることなく未来に向かって前向きに生きていこうというメッセージを感じさせてくれました。また、ペットボトルリサイクルアートにチャレンジし、東京オリンピック・パラリンピック大会のシンボルマークとマスコットを作成しました。



午後からは吹奏楽部の演奏で、明るく華やかな雰囲気となりました。迫力のある演奏に、改めて音楽のを感じさせてくれました。最後に全員で校歌を歌い、学校愛を感じる素晴らしい演奏に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後を飾るのは3年の学年劇「未来～輝くために～」－『意志と表象としての世界』より一です。

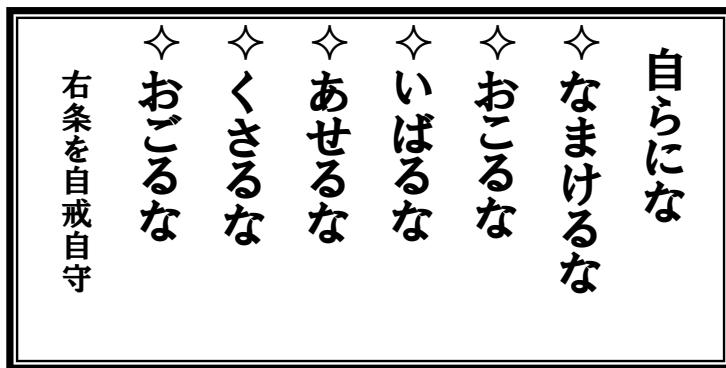
昨年度の文化祭・2年学年劇「月桃の手紙」の集大成として沖縄を訪れた3年生は、74年前の沖縄地上戦で、多くの人が自決した摩文人の丘を背景にした平和記念公園の「平和の礎」の前で、平和セレモニーを行っていました。そんな中、将来に不安を感じる主人公・和河南は、沖縄の地で祈りをささげながら黙とうするうちに周りの音が聞こえなくなり、深い眠りに襲われます。やがて、暗闇から謎の声が語りかけてきます。自分の意志だとう声は、3人のクラスメイトの現在と未来の姿を見せてくれます。「いじめ」「不登校」「人権侵害」3つのエピソードから、「未来は、自分が決めた行動で周りを取り巻く人々の未来も変わっていく」と語ります。現実に戻った和河南は、「誰かのためや何かのために生きることで、その人の未来を書き換えることができる」「未来を決めるのは、今の行動である」と悟り、今を明るく前向きに頑張ろうと決意します。

「過去」を振り返ることから「今」を考えた昨年の学年劇から、「未来」の自分や家族、自分を取り巻く人々のために「今の行動」を考えるという今年の学年劇へつながりました。また、未来をイメージしたステンドグラスも作成しました。子どもたちの成長を実感するとともに、難しい内容をしっかりと表現した3年生に感動しました。

この文化祭をとおして、一人ひとりがさらに成長し、互いに支え合い、協力し合いながら、それぞれの課題を克服し、未来に向かって飛躍してくれることを期待しています。

表彰	文化祭のテーマ	3年1組	小林恭佳
	文化祭シンボルマーク	2年2組	中野祐花

# 未来を切り開くための人生訓



高野山で修業した覚鑓（かくはん）上人が、900年前に開創されたが新義真言宗の総本山・根来寺の本坊で見かけた修行する僧へのメッセージです。

自分の未来を拓くための大切な教えではないでしょうか。